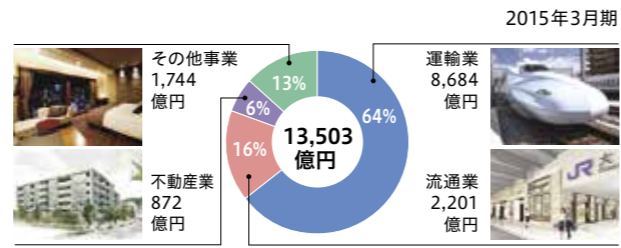


財務ハイライト(連結)

連結決算データ

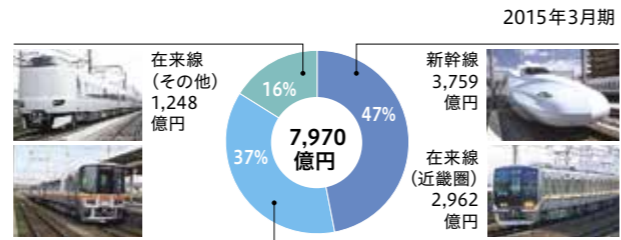
	単位: 億円		
	2014年度	2013年度	2012年度
営業収益	13,503	13,310	12,989
(再掲:鉄道事業の旅客運輸収入)	(7,970)	(7,806)	(7,691)
営業費用	12,105	11,964	11,694
営業利益	1,397	1,345	1,294
経常利益	1,219	1,129	1,046
当期純利益	667	656	601
資産合計	27,864	26,878	26,137
負債合計	19,397	18,805	18,455
(再掲:長期債務)	(10,042)	(9,807)	(9,830)
純資産合計	8,467	8,073	7,681

セグメント別営業収益



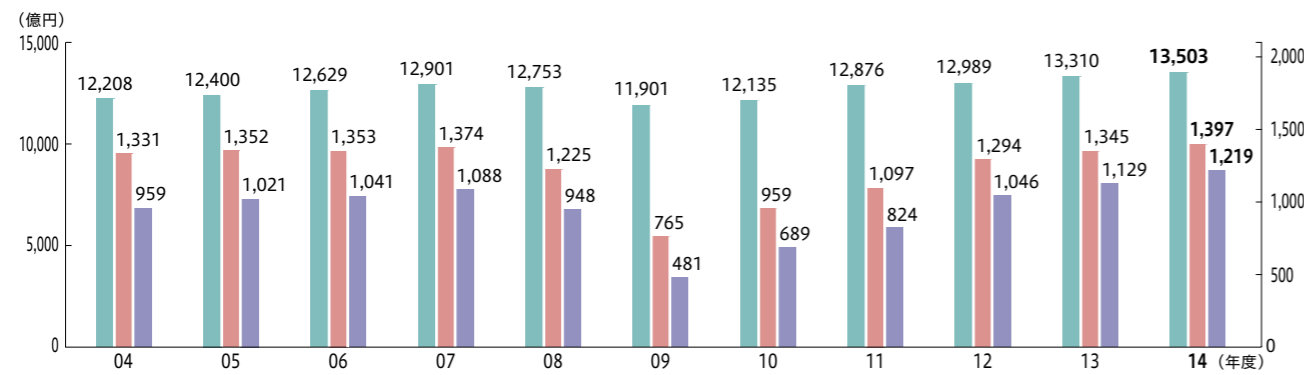
(注)1.上記セグメント別営業収益は、外部顧客に対する売上高を示しています。
 (注)2.金額については、表示単位未満の端数は切り捨て表示しています。また、比率については、表示単位未満の端数は四捨五入して表示しています。そのため、合計などと一致しない場合があります。

鉄道事業の旅客運輸収入

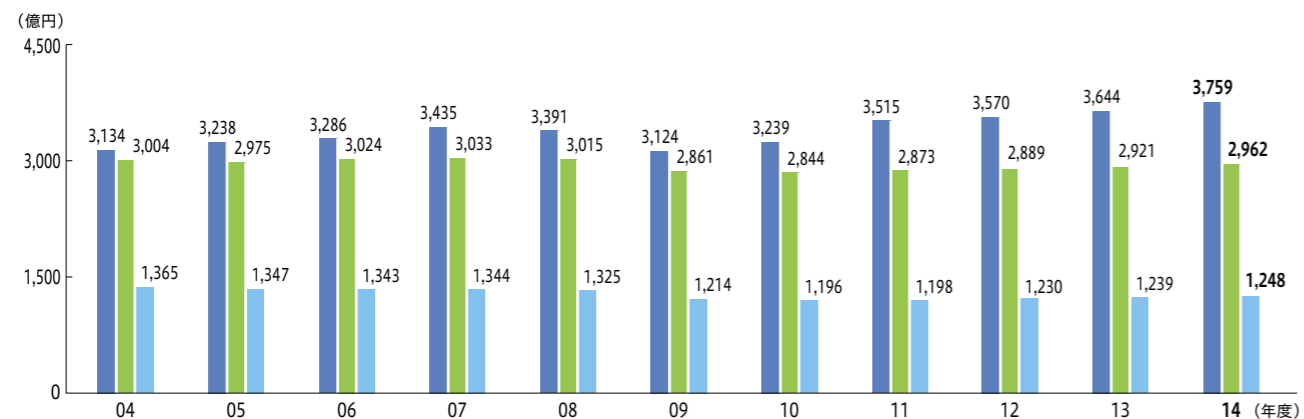


(注)金額については、表示単位未満の端数は切り捨て表示しています。また、比率については、表示単位未満の端数は四捨五入して表示しています。そのため、合計などと一致しない場合があります。

経営成績



鉄道事業の旅客運輸収入



2014年度の経営成績の分析

JR西日本グループは、基幹事業である鉄道事業において安全性の向上に全力で取り組むとともに、その他のグループ事業においては、各事業の特性を活かしたさまざまな施策の展開および保有資産の有効活用などに努めてきました。

2014年度については、堅調な景気を背景に各種施策が奏功し、新幹線・在来線ともご利用が好調だったことや、大鉄工業株式会社などの新規連結などにより、営業収益、営業利益、経常利益、当期純利益のいずれも増加しました。

①営業収益

営業収益は、2013年度に比べ1.5%、193億円増加の1兆3,503億円となりました。

運輸業については、当社の運輸収入の増などにより、2013年度に比べ2.0%、170億円増加の8,684億円となりました。

このうち、新幹線については、北陸新幹線長野・金沢間の開業による「かがやき」「はくたか」「つるぎ」の営業運転開始や、山陽新幹線における「スーパー早特きっぷ」設定区間の拡大など、ご利用促進に努めた結果、2013年度に比べ3.1%、114億円増加の3,759億円となりました。

また、在来線についても、国内外の観光需要の取り込みに加え、当社沿線での大型商業施設の開業、学校の立地を進めるなど線区価値向上に向けて取り組んだ結果、2013年度に比べ1.2%、49億円増加の4,210億円となりました。

流通業については、「JR大阪三越伊勢丹」の改装工事による支障影響などにより、2013年度に比べ8.3%、199億円減少の2,201億円となりました。

不動産業については、将来の成長に向けた新大阪駅、広島駅、金沢駅などの拠点駅におけるリニューアル工事の支障影響のほか、不動産分譲における昨年の消費税増税前駆け込み需要の反動などにより、2013年度に比べ14.7%、150億円減少

の872億円となりました。

その他については、ホテル業や旅行業が訪日観光客の獲得増大に努めたことのほか、大鉄工業株式会社などの新規連結などにより、2013年度に比べ27.2%、372億円増加の1,744億円となりました。

②営業費用

営業費用については、北陸新幹線開業に向けた準備費用が増加したことのほか、大鉄工業株式会社などの新規連結の影響などにより、2013年度に比べ1.2%、141億円増加の1兆2,105億円となりました。

③営業利益

営業利益は、2013年度に比べ3.8%、51億円増加の1,397億円となりました。

④営業外損益

営業外損益については、長期債務の返済による支払利息の減少などにより、2013年度に比べ38億円改善し、177億円の損失となりました。

⑤経常利益

経常利益は、2013年度に比べ8.0%、90億円増加の1,219億円となりました。

⑥特別損益

特別損益については、2013年度に発生した山口・島根豪雨などの災害に伴う復旧費が発生したものの、大鉄工業株式会社などの新規連結による負ののれん発生益の計上などにより、2013年度に比べ19億円改善し、7億円の利益となりました。

⑦当期純利益

当期純利益は、2013年度に比べ1.6%、10億円増加の667億円となりました。

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

情報開示に関する指針として、ディスクロージャーポリシーを定め、関係法令などで求められている重要事実の公表はもとより、JR西日本グループに関する情報を企業ホームページなどで積極的かつ公平に開示するよう努めています。

2014年度は、機関投資家の皆様に対しては、経営トップによる会社決算説明会やスモールグループミーティングのほか、個別面談を実施しました。株主の皆様に対しては、対話を重視する理念のもと、「株主センター」を設置するとともに、株主総会について、出席いただきやすい開催日の設定や丁寧な説明に努めています。また、事業内容へのご理解を一層深めていただけるよう、駅・車両所の見学会を開催しました。



北陸新幹線金沢駅および白山総合車両所見学会

詳しくはWEBで [JR西日本](#) [IR](#) [検索](#)